

韓国慶尚北道グローバルユースキャンプで学んだこと、感じたこと

叡啓大学二年 鈴木さや香

私が今回のグローバルユースキャンプで学んだことや感じたことは大きく分けて二つあり、一つ目は、キャンプの開催地である韓国に関する理解である。1週間という限られた時間の中ではあるが、慶尚北道に滞在し、様々な体験を通して文化や歴史を知ることができた。たとえば、食文化について学ぶ機会があった。韓国では、食事の際に目上の人や立場が上の人が先に食べ始めるまでは、下の者は箸をつけないというマナーがある。また、食事の準備や取り分けも基本的に年下や後輩が行う。日本にも似たようなルールは存在するが、韓国ではそれがより強く意識されており、たとえ親しい間柄であっても先輩・後輩の関係においてこうした礼儀が守られていることを知った。こうした文化は、キャンプ中に現地でサポートしてくれた韓国人学生や、学校長との食事を通して実感した。また、伝統的な祭祀料理を味わい、慶尚北道ならではの食材を使った料理を体験することもできた。これにより、韓国の食文化を初めて体験するとともに、日本との共通点や違いについても理解を深める貴重な機会となった。次に、韓国には、古くから培われてきた歴史と、最先端のテクノロジーの両方が存在しており、それぞれが韓国の魅力を形作っているということを学んだ。サムスの工場見学では、世界をリードする技術の現場を実際に見ることができ、その精密さと効率の高さに感心した。普段何気なく使っている電子機器の背景に、これほど高度な技術が使われていること、生活を支えていることを知った。また、安東民俗博物館では、韓国の伝統的な生活様式や儒教に基づく価値観、冠婚葬祭の文化について学んだ。展示がわかりやすく、日本との共通点や違いを比較しながら理解を深めることができたのは興味深かった。さらに、世界遺産である仏国寺や河回村を訪れたことで、歴史ある建築や文化の美しさを肌で感じることもできた。

二つ目は、アジア各国から集まった同年代の人々と交流し、多様な文化や考え方に触れたことだ。普段の生活では出会うことのできない人たちと、言語や文化の違いを超えて関わったことは、非常に貴重な体験だった。特に印象に残っているのは、長時間のバス移動の間にたくさん話げできたこと、また、滞在先で同じ部屋だったルームメイトとは、夜遅くまで話し込んだり、お互いのお土産を交換したりしながら、言葉だけではないコミュニケーションの大切さを実感した。さらに、博物館での自由時間には、インドネシアの参加者と一緒に展示を見ながら、それぞれの国の伝統文化や宗教観について語り合った。芸術作品の見方や音楽の感じ方について話したとき、言葉では完全に伝えきれないもどかしさも感性として共有することができるということにも気づかされた。会話の内容は多様で、ファッションや音楽、人気のアーティストや流行についてなど、日常の話題で盛り上がった一方で、将来の夢や、自分が興味を持っている分野、社会問題や政治に対する考えなど、深い話題についても話し合った。共通点も違いもあったが、互いに考えを尊重し、理解しあうことができ、とても有意義な時間だったと感じている。様々な国からの参加者との交流で、国やバックグラウンドに関係なく、国境を越えた友達を作ることができ、とても充実していたと思う。このグローバルユースキャンプを通して、韓国への理解と国際的な視野を深めることができた。学んだことを今後の学びに活かし、異なる価値観を尊重しながら、多くの人と理解し合える力をさらに伸ばしていきたい。